

生誕 200 周年記念シンポジウム

ボードレールの《世界性》

—西洋と東洋の境界を越えて—

1. 日時

2021 年 11 月 27 日（土）14 時 20 分～16 時 20 分

（日本フランス語フランス文学会東北支部会におけるシンポジウム）

2. 概要

1821 年にフランスの詩人ボードレールが誕生してから、2021 年は 200 年という節目の年に当たる。現在、この詩人がフランス文学に与えた影響が計り知れないほどのものだったということを否定するものは誰もいないが、諸外国の文学に与えたインパクトもまた、尋常でないほど巨大なものだったということも忘れてはならない。

本シンポジウムでは、この生誕 200 周年という機会に比較文学、ドイツ文学、ロシア文学、中国文学の専門家にご登壇いただき、ボードレールがフランス以外の国の文学に与えた影響の内実について、それぞれご報告いただく。その作業を通して、ボードレールという詩人の《世界性》について改めて考えてみたい。（ZOOM による開催）

3. プログラム

司会による 5 分ほどの前口上に続き、以下の各 25 分×4=100 分のご報告、そして 15 分の全体討議で構成される（予定）。

（1）ボードレールとルーマニア (14:25-14:50)

——岩津 航（金沢大学）

・・・ルーマニア生まれの詩人バンジャマン・フォンダーヌにおけるボードレール受容について語っていただきます。

（2）ボードレールとドイツ (14:50-15:15)

——海老根 剛（大阪市立大学）

・・・20 世紀ドイツを代表するユダヤ人思想家ヴァルター・ベンヤミンにおける『悪の華』の痕跡について語っていただきます。

（3）ボードレールとロシア (15:15-15:40)

——寒河江 光徳（創価大学）

・・・ロシア象徴主義詩人コンスタンチン・バリモントとボードレールの関係性について語っていただきます。

(4) ボードレールと中国(15:40-16:05)

——小川 利康(早稲田大学)

・・・近代中国を代表する文学者、魯迅と周作人の兄弟とボードレールの関係性について語っていただきます。

司会・コーディネーター

——坂巻康司(東北大学)

4. 報告者プロフィール(登壇順)

岩津 航

金沢大学歴史言語文化系教授。パリ第4大学博士課程修了。著書に『死の島からの旅：福永武彦と神話・芸術・文学』(世界思想社、2012)、『文学 海を渡る：「越境と変容」の新展開』(共著、三弥井書店、2016)、訳書にロマン・ガリ『夜明けの約束』(共和国、2017)、ジョゼフ・チャプスキ『収容所のプルースト』(共和国、2018)、Fukunaga Takehiko, *Les Fleurs de l'herbe*, (共訳、Les Belles Lettres, 2021)など多数。

海老根 剛

大阪市立大学文学研究科准教授。東京大学大学院博士課程修了。著書に『文化接触のコンテクストとコンフリクト：環境・生活圏・都市』(共著、清文堂、2018)、『ドイツ文化55のキーワード』(共著、ミネルヴァ書房、2015)、訳書にヨアヒム・ラートカウ『自然と権力——環境の世界史』(共訳、みすず書房、2012)、論文に「モデルニテからモデルネへ：ベンヤミンにおけるボードレール」『ドイツ文学』105号(2000)など多数。

寒河江 光徳

創価大学文学部教授。東京大学人文科学系大学院博士課程修了。著書に『文学という名の愉楽——文芸批評理論と文学研究へのアプローチ』(春秋社、2018)、『表現文化論入門：インターメディアリティへの誘い』(共編著、第三文明社、2021)、『ヒューマニティーズの復興をめざして』(共著、勁草書房、2018)、『ロシア文化の箱舟——ソ連崩壊から二〇年』(共著、東洋書店、2011)など多数。

小川 利康

早稲田大学商学大学院教授。早稲田大学大学院修士課程修了。著書に『叛徒と隠士——一九二〇年代の周作人』(平凡社、2019)、『周作人至松枝茂夫手札』(共著、広西師範大学出版社、2013)、論文に「周氏兄弟とボードレール」『アジア評論』1号(2020)、「文白の間——小詩運動を手がかりに」『中国古籍文化研究 稲畑耕一郎教授

退休記念論文集』下巻（東方書店、2018）など多数。